胆汁培養から *Lactobacillus paracasei* が検出された一例

◎高柳 椋[1)]、齊藤 良子[1)]、長井 静香[1)]
富山赤十字病院[1)]

【はじめに】*Lactobacillus paracasei* は口腔内や腸管に常在する嫌気性のｸﾞﾗﾑ陽性桿菌であり、胃酸や胆汁酸耐性に優れる。今回、胆汁培養から本菌を検出した症例を経験したので報告する。

【症例】70 代男性。糖尿病で当院通院中。前日まで健常確認されていたが翌日家族に倒れている所を発見、救急搬送された。閉塞性黄疸にて十二指腸腫瘍疑いの診断で X 日入院となり CMZ が投与開始された。既往歴に 2 型糖尿病、脳梗塞後遺症がある。X+1 日に PTCD 施行、肝障害が改善し減黄したが X+4 日後に炎症反応が再上昇し、血液培養 2 ｾｯﾄと PTCDﾁｭｰﾌﾞの排液が提出、MEPM に変更された。X+6 日に炎症反応上昇続いており再度ﾄﾞﾚﾅｰｼﾞ施行され胆汁が提出された。X+8 日からは ABPC と LVFX が併用されていたが全身状態不良で X+18 日目に死亡退院された。

【細菌学的検査】胆汁培養においてｸﾞﾗﾑ陽性桿菌を認め、好気培養で 15～16 時間培養後、血液寒天培地上に小ｺﾛﾆｰの発育を認めた。*Lactobacillus* 属の可能性が疑われ、主治医に報告し外部委託を実施、抗菌薬が ABPC+LVFX に変更された。外注検査の同定は質量分析(Bruker)、薬剤感受性は栄研ﾄﾞﾗｲﾌﾞﾚｰﾄを使用している。また、当院においてﾃﾞｨｽｸ拡散法と CLSI M45 ED3 に基づく CAMHB を用いた薬剤感受性検査を実施した。質量分析ではｽｺｱ値 2.23 で *Lactobacillus paracasei* と同定された。薬剤感受性は外注結果上、ﾍﾟﾆｼﾘﾝ系耐性、MEPM 耐性、CMZ 耐性等であり CLSI M100 ED30 嫌気性菌のﾌﾞﾚｲｸﾎﾟｲﾝﾄで判定されていた。当院の CLSI M45 ED3 に準拠した判定ではﾍﾟﾆｼﾘﾝ系感受性、MEPM 耐性であったことやﾃﾞｨｽｸ拡散法の結果も参考として最終的にﾍﾟﾆｼﾘﾝ系感受性、MEPM 耐性である旨など臨床に報告した。

【まとめ】本症例では、準拠する CLSI が異なるため外部委託先と当院の薬剤感受性判定が一部異なる結果となった。外部委託を実施した菌株について外部委託先の結果を踏まえつつ、CLSI 基準を確認し設備状況に応じて検査が可能であれば実施する必要性があると思われた。

連絡先 076-433-2222（内線 2381）